

10. プログラム・マネージャー：八木 隆行

研究開発プログラム：イノベティブな可視化技術による新成長産業の創出

平成 26 年度 研究開発プログラム実績

研究開発プログラムの構想

超高齢化社会が到来し、病気や介護への不安が広がっている一方で、健康で美しさを保ち、安心して働ける生活が求められている。また食の安全や製品の品質などへの不安も高まっている。本プログラムは最先端レーザと超音波を融合した<傷つけない><痛くない>新しい可視化技術(光超音波イメージング技術)で国民生活の安全・安心の実現に貢献する。生体の血管網及び物質の特性をリアルタイム三次元可視化する技術を完成させ、医療・健康分野での価値を検証するとともに計測分野への応用が可能であることを提示する。

研究開発プログラムの進捗状況

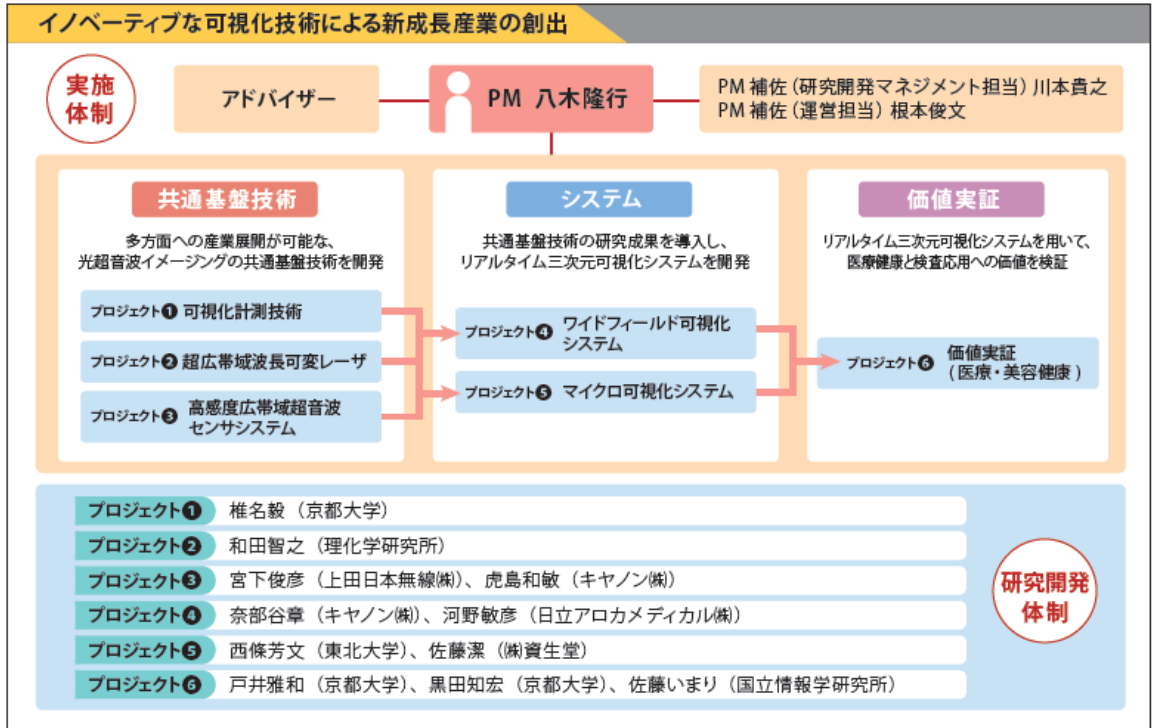
平成 26 年 6 月の総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) での採用決定後、研究開発プログラムの作り込みを行ない、プログラム構想の実現に向けて 6 つのプロジェクトからなる研究開発体制を構築した。作り込みの結果(研究開発プログラム全体計画)は 10 月の CSTI 革新的研究開発推進会議で承認され、研究開発を開始させた。平成 26 年 3 月末現在、本プログラムの研究開発体制は延べ大学 4、独法 2、民間企業 5 となっている。本年度は本プログラムの目指す医療・美容分野における展開に対して、プロトタイプ機等の具体的な仕様を決定する等、順調に進捗している。

研究開発プログラムの実施管理状況

本プログラムは、全体のプログラムを効率よくマネジメントするために、要素技術等の単位で 6 つのプロジェクトに階層化させた体制を構築した。この実施体制の下、プログラム全体の運営を担う運営会議を設置した他、プロジェクト間の検討課題等を議論するための研究代表者会議および、プロトタイプ機の仕様・機能等を協議するシステム化検討会議も設置し、連携や情報の共有化を重視した運営を行った。また、各研究開発責任者・研究者との直接的な情報交換・意思疎通を図るためにサイトビジットを中心に行った。

アウトリーチ活動として、本プログラム全体のアウトリーチ戦略を協議・推進する広報活動チームを運営会議下に設置し、各研究開発機関を含めて議論を行っている。

研究開発体制



(参考) 特許・発表・論文数等

特許				他の産業財産権合計 (商標、意匠など)			
出願件数		登録件数		出願件数		登録件数	
国内	海外	国内	海外	国内	海外	国内	海外
0	0	0	0	0	0	0	0

会議発表 (総数)			(国際会議発表分)			(国内会議発表分)		
発表数	発表数の内、査読有	発表数の内、招待	発表数	発表数の内、査読有	発表数の内、招待	発表数	発表数の内、査読有	発表数の内、招待
14	6	4	4	3	1	10	3	3

発表数は、招待講演、口頭発表、ポスター発表の合計を記載してください。

論文数 (総数)		(外国誌分)		(国内誌分)	
発表数	内、査読有	発表数	内、査読有	発表数	内、査読有
5	4	2	2	3	2

原著論文、Proceedings、総説などを含む

表彰件数	0
------	---

書籍出版件数	0
--------	---

報道件数	0
------	---